

記念文集第三編

傘寿を迎えて想う

くこれまでとこれからく

岡山朝日高等学校

昭和三十二年入学

昭和三十六年卒業生有志

生涯現役を貫く

馬場 勉

来年（令和4年）4月15日には満80歳を迎える。すでに、鬼籍に入っている人もいれば、悠々自適の生活にどっぷりつかっている人もいる。反面、政治家や作家、さらに個人営業の事業主を含む経営者などに多いのだが、元氣溘刺、仕事等に精力を注いでいる人もいる。私は後者の方を選択した人生を営みたいと思つて日々過ごしている。結構、仕事や遊び（旅行など）さらに社会活動などに忙しく暮らしている。「ポツンと一軒家」の生き方に感動をおぼえる。

片岡大兄君が人生の締めくくりに第3弾目の最後になるであろう文集を作成することに熱情を傾けて頑張つていらつしやるゆえに、この機会に、私は少し人生の途中下車をして、かつ、立ち止まって現在の人生に対する心境を書いてみようと思ひ、拙文を少しばかり要約して書いてみた。

私にとつて、現時点は生涯現役の途上というところである。したがつて、人生の集大成とか終活（雑誌等では盛んに特集

を組んでいるが）のための身辺整理とかいうような特別のこととは何も考えていないし、やつていない只今であるから、将来はなるようにしかならないだろうという程度の考えで気軽に思ひを述べてみたい。

私の考えでは、概ね人生は、以下の通り3つに集約されるのではないかと思う。

◎第一

多少の余裕のある金銭を老後は蓄えておくこと。

すなわち、億万長者には興味はない。むしろ、富裕層の人になればお金に拘束されて、悩みも多くなるだろうから。例えば、最近の私の流儀では、株式の運用は、利得フアストの心意気で儲けのためにやるといふ哲学のもと、稼ぎに徹し、利益の一部を社会福祉のために、寄付して社会還元するという考えだ。株式をする人は認知症になりにくいというのも事実だ。色々情報を集めて勉強して頭を使うからだろう。知的好奇心が湧いて面白いから楽しいのかもしれない。

コロナ禍で分かったことは富裕層と貧困層がはっきりしてきたことだ。日経新聞によれば「日本に潜む政治の分断」が始まり、投票行動を分析すれば、40歳未満だけ↓自民300に迫る。半面、高齢者と女性↓自民過半数を下回

る。という結果（チャートは語る）令和3年11月7日号朝刊による。ということは、何を意味するのか興味湧くところだ。意味深長である。研究の余地ありか。

日本の近代史の歴史を振り返れば、おしんの時代から戦後の貧しさ、国民総中流社会の時代から。勝ち組と負け組がはつきりしてどうにもならなくなった現在だと思う。

これからはどういう時代が求められるかだが、私には正確なことはわからない。若者が政治に興味がないのは、アルバイトや政府からのバラマキによる給付金などでぬるま湯の生活をしている者が多いからだろう。所詮は投票しても世の中変わらないから、生活に困らない世代の者が多くて、政治に関心がなくなったのだろうか？全学連の時代を経験した者からみれば、世の中が平穏な時代になったということが、果たして社会発展のためにはよいことだろうか？もつと深刻に考える必要がありはしないか！私たちの若い時は、左翼、右翼、中道の思想に関わらず真剣に悩んだように思うが。社会を、人生を！

◎第二

仕事、趣味、旅行など、日常生活が充実していることだ。

皆さんが、どのような仕事を選択し、人生行路を歩まれ過ぎられたかわからぬが、後悔先に立たずで、今更どうに

もならない。後悔もあれば、喜びもあるだろうが、今更、過去を振り返って云々しても、埒があかない。前を見て頑張るだけだろう。私にとっては、只今は、人生の通過点にすぎないから、残された最大20年程の人生をどのように生き抜くかを考えることが大切なのである。年金に頼るだけではなく、生産的な人生を営むことを考えてみるのが大切だろうと、思索しているのだがどうか？

政府に頼らず、自ら考え行動することだろうと思う。90歳でノーベル賞を受賞した真鍋淑朗博士のように、現役で研究に没頭する姿も素晴らしい。アメリカはいつまでも研究活動が出来る。日本も考え直す必要があるのではないのでしょうか。老人ホーム不用の時代が来ればよいのと思います。なぜならば、年齢相応に必要とされる社会が芽生えれば、年寄りも元気に過ごせるはずです。

◎第三

男と女は人間の本质で永遠の謎。

紫式部の「源氏物語」や清少納言の「枕草子」を思い起こすまでもなく、生と死と愛の男と女のコミュニケーションは永遠の謎だ。男と女といえは恋愛から始まり、結婚があり、離婚があり、生涯一人暮らしを選ぶ人もいる。好き勝手な独身生活もまた楽しからずやの心境だろう。

男と女はセックスだけでなく、深い何とも言えないつながりがあるように思う。作家の多くが、男と女の関係で模索し、生涯をかけて苦悩し、探し求めてもわからぬままに、文章を書いてきた。しかし、いまだ結論はでていない。永遠の謎であろう。特に、99歳で亡くなった（亡）瀬戸内寂聴さんの人生の生き方と文章には深い悩みと苦悩がある。他の作家にも同様に言えることだが、男と女の気持ちは永遠に変わらず、これからも謎は消えることはない。年をとっても、「老いらくの恋」もあるから、これからでも遅くはないと考えることもできる。まだ、先に光明が見えますから頑張りましょう。昭和時代の演歌は恋の歌でした。懐メロが今でも歌われ流れているではありませんか。

ところで、私的には、大病はしなかったが、多少の年齢相応の病気はしながら、元気に生活している。現在でも死ぬる気がしないため、人生100年の時代ゆえ、生涯現役を貫いて、まだまだ生き続け働きたい。輸血をした時に、血が一滴ずつ落ちるのを見て、どなた様の献血か知れぬが涙が出るほど嬉しかった。お返しに税金とか献金をして恩返ししたいとつくづく思った。多少は実行しているが、まだまだです。

所詮、経験不足の私の考えから人生を要約すれば、おおまかに3種類程度の波乱万丈の人生に分かれるのではないだろうか。

かつ、忘れてならないのは、「兄弟は他人の始まり」といわれるように、血のつながりのある人間関係がおかしくなれば、殺人事件や訴訟沙汰になる。長い歴史上においても、有名な相続争いによる歴史的動乱を動かした争いの事例など珍しくないことからいえる。血のつながりがなければ、嫌になれば、別ればそれでおしまいだけど。ただ、夫婦の場合は感情がもつれて単純ではなく、難しいかもしれないが？

◎最終的に書いておきたい徒然草はすなわち、私が思うことは『男が男にほれる人』になりたいものです。

私が好きな尊敬する現代人は

●永守重信（学校法人永守学園理事長Ⅱ京都先端科学大
学）

日本電産の創業者、少し角のある経営者だが、人生を精一杯走っている人。

●五木寛之（作家）

色々な文章をたくさん書き続けられるものだと感心している。人生の先輩と思い、見習いたいものだ。十歳年上だ

が数多くのレギュラー番組の文筆と講演で旅をしている。まだまだ元氣溼刺に活動されている。

●浦上雅彦

岡山朝日高校の二回り下の後輩。岡山市長選で先程、落選した。現役の大森市長とは、投票率が4分6で敗れたが、しかし、ほとんど名前が知られていなかった前市会議員議長だったが、新人に等しかったにもかかわらず善戦だった。魅力のある人。いつの日か、日の目を見ることができらるであろう。知名度がないのに、よく頑張ったと思う。

●田中角栄（総理大臣）

すでに過去の人で、世の中では毀誉褒貶は多いが、生き方には感銘を受けている人も多い。私もその一人です。

●岡崎嘉平太（全日空社長等を歴任。日中友好に尽力）

岡山県吉備中央町出身の実業家。岡山中学校卒業。大学生の時、岡山県の学生に講演してくれた。社長車が小型だったのにびっくりした。

◎人生の先人が、長い間読み継がれてきた古典に学ぶこともよい。

古典の名言（古典日本三大随筆ほか、現代人にも通じる人生哲学）

①徒然草（吉田兼好）

②方丈記（鴨長明）

③枕草子（清少納言）

④平家物語

⑤土佐日記

⑥源氏物語

⑦奥の細道

などその他にも多い。

◎キャッチコピーの名言と思われる文言の一つ

『年齢は単なる数字にすぎない。』心理をついている（岡山県鏡野町にある蜂蜜の会社のコーシヤルの文句）年のせいにはしないことだ。気持ちの持ち方の問題だ。

◎その他、新聞、雑誌、本などにもハツとするような名言や人心の琴線に触れる深遠な文章がある。私も死ぬるまでには他人の心に残るような名言のひとつでも残したいものだ。

◎所詮、今後80歳台以降、どのような生き方をするか？個人差があり、人生感の問題だと思う。いずれにせよ、人生一度きり、今日という日を大切に生きて、後悔のない悔いを残さない終り方をしたいものである。お互いに元気で生きて生きていきましよう。私は筆を持ったまま机の上で亡くなるか、老衰で静かに世を去りたいと願念している。私達はともに、現在は、利害関係がない旧友（岡山朝日高校の同級生）です。今後ともお互いに仲良く

楽しくお付き合いをしながら、人生の本当の終焉を迎えたらよいのではないでしょうか。すでに遅いが、成功には幅の広い友人関係が大切でしたね…。それゆえ、80歳代になっても会合等には出席したいです。実行あるのみ。

こういうような文章が書け、生きているのは、私だけでなく、みんな「人生の勝利者」と思っただけではないでしょうか？まだ、仕事その他で必要としてくれる人がいてくれます。頼りにされているのです。頑張りましょう。

令和3年11月12日記

合掌



フウトウカズラ(コショウ科)

株式会社 馬場総合鑑定所



不動産鑑定士・不動産カウンセラー・行政書士

社長 馬場 勉

TEL 086-222-6591
FAX 086-223-5839
携帯 090-7128-2873

<http://babakanteisho.co.jp>
E-mail: babakan@crocus.ocn.ne.jp
〒700-0913
岡山市北区大供3丁目1番18号
瀬戸内海放送KSB会館4階

座右の銘：「不動心」「一隅を照らす」
株式会社まちづくり総合研究所 馬場勉行政書士事務所

- ・1942年（昭和17年4月15日生）79才 生涯現役
- ・岡山朝日高校・中央大学法学部卒業
- ・株式会社谷澤総合鑑定所（大阪本社勤務）
- ・岡山商科大学社会総合研究所 特別研究員
- ・岡山県共済協同組合 総代
- ・岡山クラブ 会員（日本銀行 岡山支店）
- ・岡山県警察友の会 会員（岡山県警察本部）
- ・岡山武蔵倶楽部 幹事（岡山商工会議所）
- ・岡山経済同友会 幹事
- ・岡山商工会議所 会員
- ・岡山日経懇話会 会員（日本経済新聞社）
- ・中央大学学員会岡山県支部 会員（中央大学）
- ・岡山西法人会 会員（岡山西税務署）